

## Ⅱ 文京区の緑をとりまく環境

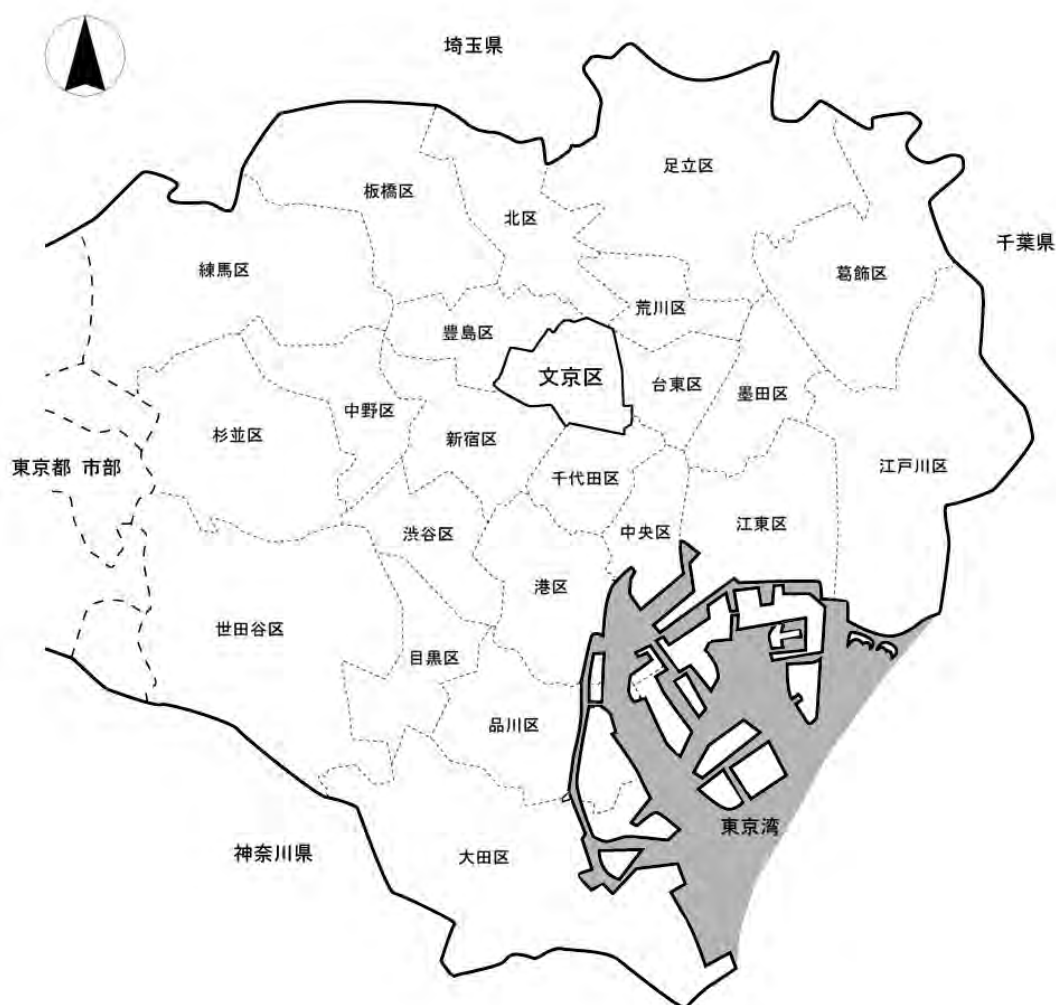
### 1. 文京区の概要

東京都区部の中央部に位置し、千代田区、新宿区、豊島区、台東区、北区、荒川区に接している。(図Ⅱ-1)

区の面積は 11.29 k㎡、人口 221,489 人(住民基本台帳による外国人住民含む統計値/平成 31 年 1 月 1 日現在)である。面積では、23 区中 20 位、人口では 19 位となっており、人口密度が 6 位と高く、都心部の中では住宅地としての特徴が強い。

区内の主要施設には、大名庭園や社寺、小石川植物園などの歴史的な沿革を持つものが多く、また東京大学をはじめ多数の学校を要する文教地区となっている。このため都心部の中では緑の豊かな地域である。

本区では、緑の取り組みとして「文京区緑の基本計画」を策定し、公共施設や民有地を含めた総合的な緑の保全と創出並びに緑化の将来像を示す指針としている。



図Ⅱ-1 文京区の位置

## 2. 自然的背景

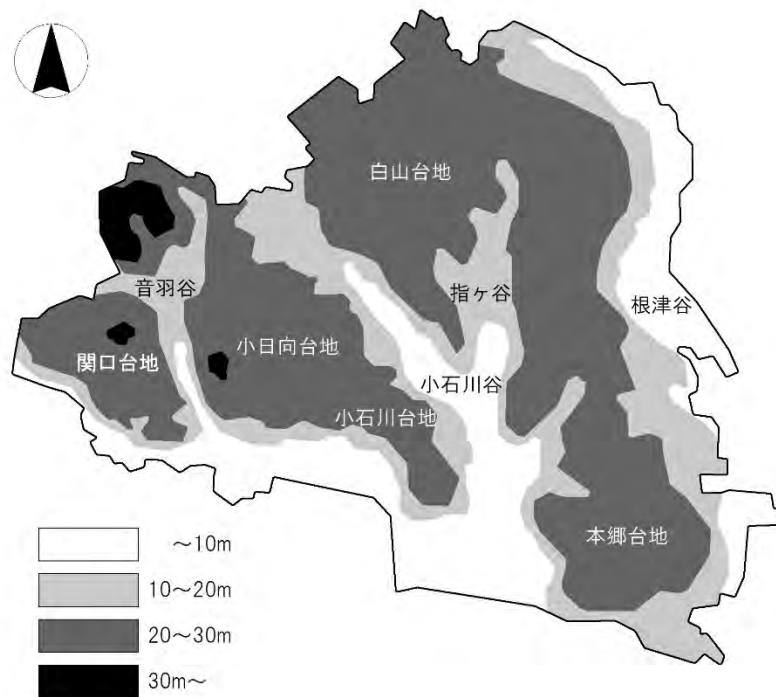
### (1) 地形と地質

本区は武蔵野台地の最東端に位置し、東側の隣接地域には中川・荒川低地が広がっており、図Ⅱ－2に示すように、台地と台地にかこまれた幾つかの谷から成り立つ谷戸地形を呈している。

区の西側から、関口台地、小日向台地、小石川台地、白山台地、本郷台地の5つの台地に分かれ、音羽谷、小石川谷、指ヶ谷、根津谷の4つの谷が台地の奥へ入り込んでいる。

南部と東部は、神田川、千川・藍染川（ともに現在暗渠）などにつくられた低地となっている。台地と低地の面積割合では、台地の面積が大きく、武蔵野台地の地形的支配が強いことが特徴である。

このような地形の特性が、江戸時代から現在に至る本区の土地利用の遠因ともなっている。つまり、台地上や台地から谷へ移行する斜面上に大きな敷地の大名屋敷や武家屋敷が建てられ、そこが公共・文教施設などへ引き継がれて現在の本区の緑を形成している。



図Ⅱ－2 文京区の地形

台地面の地質は関東ローム層と呼ばれる洪積層からなり、多孔質で団粒構造となりやすい火山灰土壌を生成する。この火山灰の表層土壌は別名クロボクともいわれ、良質な畑土であると同時に植物の生育にも適した土壌である。

低地面は沖積層で構成され、泥質土ないしは粘質土である。この土壌は養分に乏しく水はけが悪いため、畑や植物の生育基盤にはあまり適していない。

(2) 気候

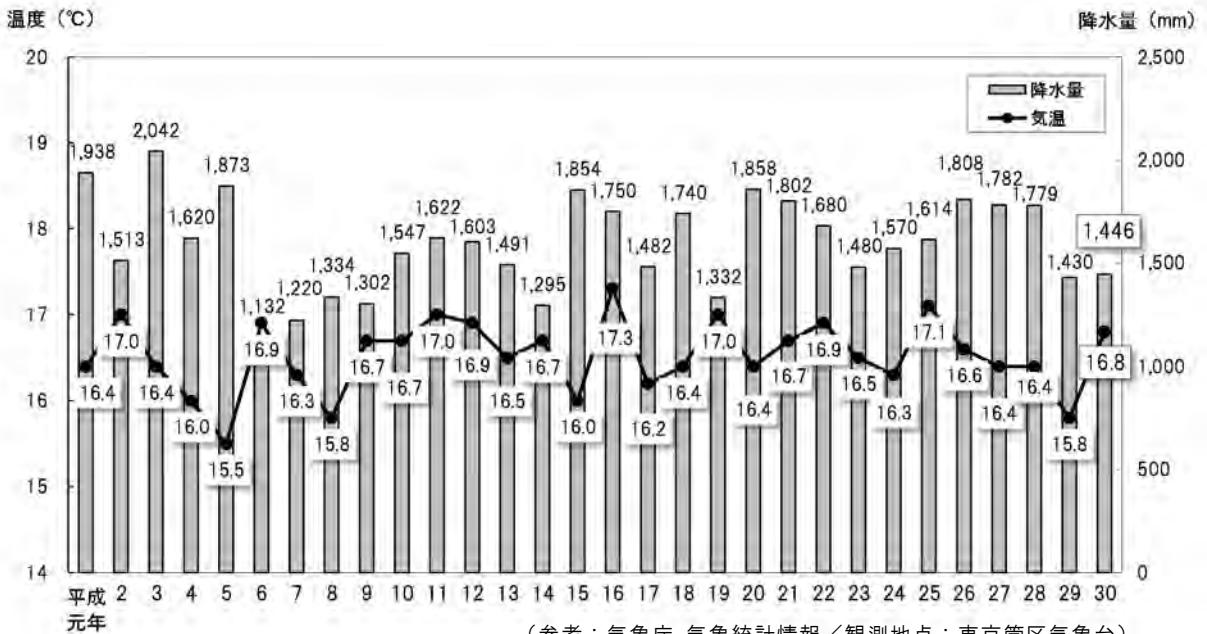
本区付近（気象庁 東京管区気象台）で観測された平成 30 年の平均気温と年間降水量および過去 30 年の気候の推移を表Ⅱ－1、図Ⅱ－3にそれぞれ示す。

過去 30 年の年間降水量には際立った傾向は確認されないが、温度は上昇傾向にあることがわかる。これは、世界的な気候変動はもとより、都市部特有のヒートアイランド現象も一因とみられ、本区もその影響を受けていると考えられる。

表Ⅱ－1 文京区付近の気候

平成 30 年 平均気温	平成 30 年 年間降水量
16.8℃	1,446mm

(参考：気象庁 気象統計情報／観測地点；東京管区気象台)



(参考：気象庁 気象統計情報／観測地点；東京管区気象台)

図Ⅱ－3 文京区付近の過去 30 年の気候推移

(3) 植生

本区の気候帯に対応する植生はヤブツバキクラス域に属する。東京都植生調査報告書(昭和 62 年)によれば、東京都区部の潜在自然植生は台地面でスダジイ-ヤブコウジ群集、海に近いところでタブノキ-イノデ群集とされている。これは地形・地質の特性とも合致する植生立地である。

現存する自然度の高い植生には、自然植生としてスダジイ-ヤブコウジ群集（後樂園、六義園、関口 1 丁目の一部）、タブノキ-イノデ群集（後樂園）がみられ、代償植生の樹林地には、ムクノキ-ミズキ群落（後樂園）、コナラーイイギリ群落（新江戸川公園）がみられる。

### 3. 歴史的背景

本区は、江戸城の隣接地域として江戸時代から開発整備がなされてきた。岩槻街道と中山道（追分－東大農学部前で分岐）の街道が整備され、その沿道に本郷地域を中心とした市街地が整備された。また台地面には大名、旗本の屋敷用地が確保され、土地利用の骨格が形成された。

主な大名屋敷跡には、小石川後楽園（水戸藩）、六義園（柳沢吉保邸）、小石川植物園（五代将軍徳川綱吉別邸）、東京大学本郷キャンパス（加賀藩）などがあり、かつての大名屋敷のいくつかは、現在では大規模な緑地となっている。

社寺は、江戸初期に御曲輪内に御家人を住ませるために濠の外に社寺を移したことに始まる。さらに、五代将軍綱吉の代には根津神社や護国寺の二大社寺が建立され、社寺周辺の低地は寺町として商業が栄えた。

明治以降は、台地面の武家屋敷は公園用地や公共用地、住宅地となり、低地には印刷業を中心とした商工業が発達した。

これら本区の歴史的由来を背景に持つおもな緑地について表Ⅱ－2に示す。

表Ⅱ－2 おもな緑地の歴史的由来

名 称	歴 史 的 な 由 来
小石川後楽園	水戸藩徳川家の上屋敷の庭園。昭和13年東京市立公園。
六義園	五代将軍綱吉の側用人柳沢吉保の下屋敷。昭和13年東京市立公園。
小石川植物園	五代将軍綱吉の館林城主時代の別邸（白山御殿）。「小石川御薬園」が植物園の前身。
東京大学本郷キャンパス	加賀藩前田家の上屋敷。
東京大学弥生・浅野キャンパス	水戸藩徳川家の中屋敷。
教育の森公園・占春園	守山藩松平家の上屋敷。旧東京教育大学跡地。
肥後細川庭園	熊本藩細川家の下屋敷。
椿山荘	上総久留里藩黒田家の下屋敷。
関口芭蕉庵	藤堂家の神田上水工事に参加した松尾芭蕉のゆかりの地。
湯島聖堂	五代将軍綱吉が上野忍ヶ岡から現在地に移した。
豊島岡墓地	明治6年明治天皇の第一皇子の墓所となり、以後皇族の墓所となる。
大塚先儒墓所	江戸時代幕府の儒官の墓所。寛政の三助はじめ室鳩巢の墓がある。
根津神社	1900年近く前に創祀したと伝える古社。五代将軍綱吉の兄甲府中納言綱重の屋敷。
湯島天満宮	5世紀に創建と伝えられ、14世紀に菅原道真を勧請して合祀した。のち太田道灌が再興。
富士神社	加賀藩前田家が上屋敷を賜るにあたり、その地にあったものを現在地に移した。
白山神社	10世紀に建立。五代将軍綱吉と生母桂昌院の崇敬を受けた。
護国寺	五代将軍綱吉の生母桂昌院の願いにより創建した祈願寺。
伝通院	正称寿経寺。家康の生母伝通院（於大の方）の菩提寺。
吉祥寺	曹洞宗の宗門随一の梅檀林（学寮）があった。

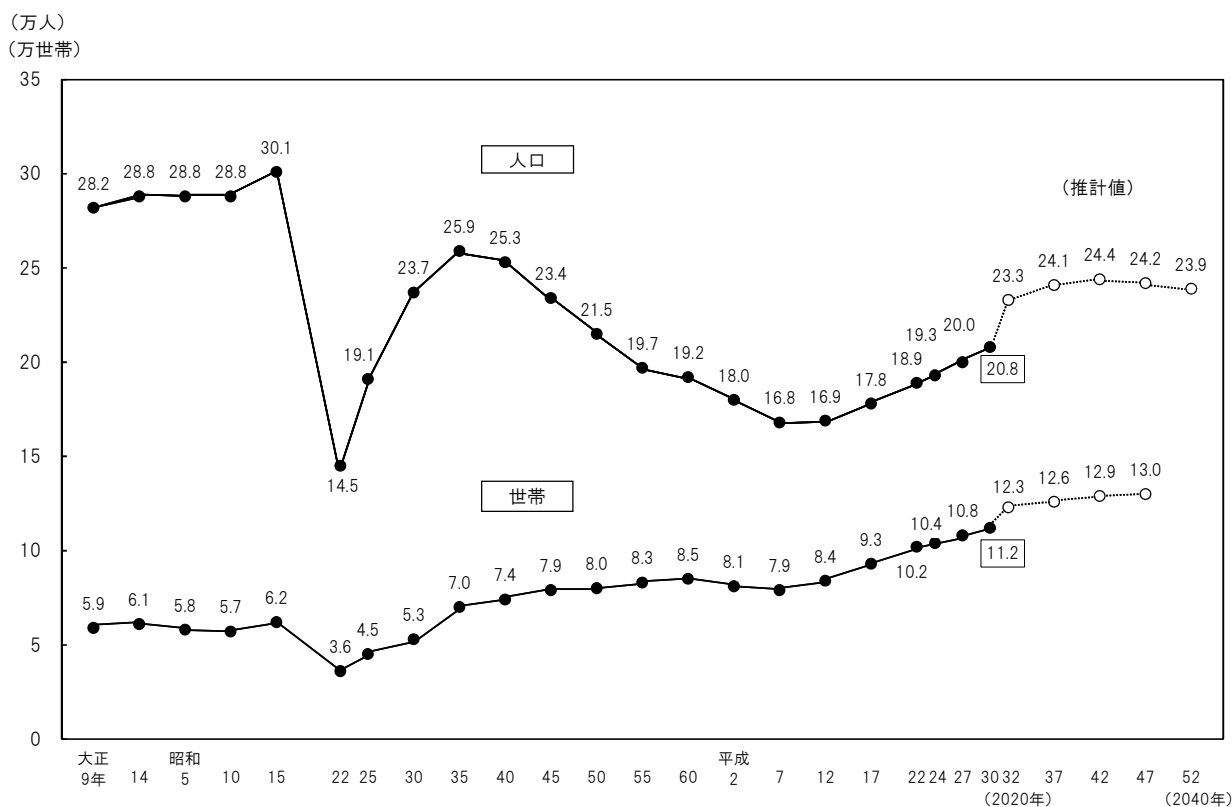
## 4. 社会的背景

### (1) 人口

文京区の人口推移を図Ⅱ－4に示す。

人口は大正から昭和初期にかけて約30万人を超えるまでになっていたが、戦争の影響で昭和15年以降は激減した。戦後の復興とともに再び増加傾向に転じて、昭和30年代半ばに25万人を超えるまでになった。その後、平成7年までは減少傾向で17万人を下回るまで下がったが、現在では20万人まで徐々に上昇して推移している。今後は、人口の増加傾向は徐々に沈静化し、平成42年(2030年)頃にピークに達した後、減少傾向に転じると考えられる。

なお、平成30年までの人口、世帯数は、住民基本台帳に基づく数値であり、過去と統計値と比較するために、外国人住民を除いた値を使用している。また、推計値については、国勢調査に基づく数値となる。



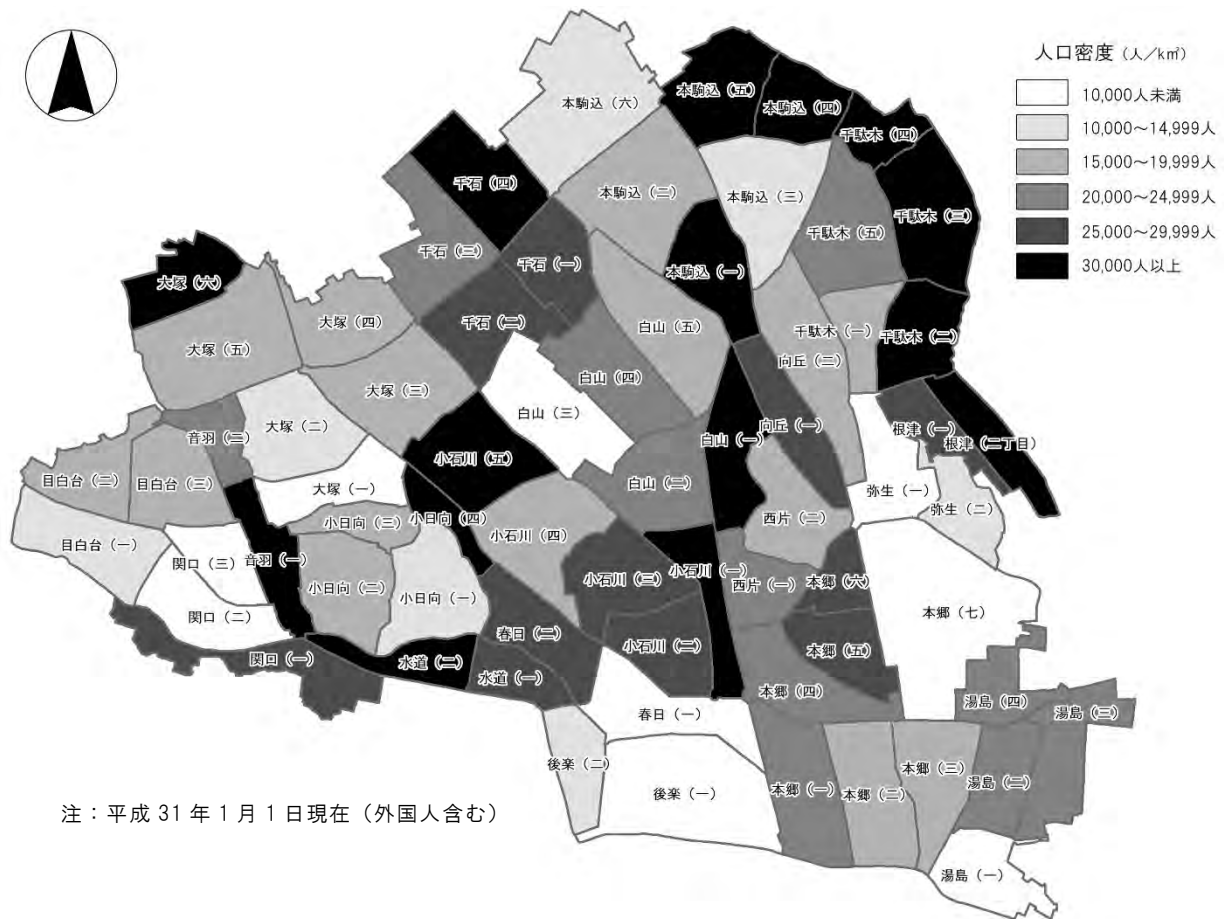
(出典：第50回文京の統計、東京都区市町村別人口の予測「H29.3」、東京都世帯数の予測「H26.3」)

図Ⅱ－4 文京区の人口の推移

町丁目別の人口密度の分布を図Ⅱ－5に示す。

町丁目別の人口密度は、根津1丁目・2丁目、千駄木2丁目・3丁目・4丁目、本駒込4丁目・5丁目などの不忍通り沿い（根津谷）、白山1丁目、小石川1丁目などの白山通り沿い（小石川谷）、音羽1丁目（音羽谷）、水道2丁目など、地形的に低地となっている地域において高い傾向を示している。また、小日向4丁目、小石川5丁目、千石4丁目、大塚6丁目など、主要な駅に近い地域も人口密度が高くなっている。

一方、本郷7丁目（東京大学本郷キャンパス）、後楽1丁目（小石川後樂園、東京ドーム）、白山3丁目（小石川植物園）など、公園や敷地面積の大きな緑地、大学等の規模の大きな学校施設、密集したオフィスビルや商業施設等が存在する町丁目では、人口密度は低くなっている。



（出典：文京区人口統計資料 NO.786 町丁目別世帯・人口(住民基本台帳)）

図Ⅱ－5 町丁目別人口密度

(2) 土地

区の土地利用に関して地域別の行政面積および私有地面積は表Ⅱ－3に示すとおりであり、私有地面積については区部の平均的な比率と同じ程度の数値を示している。また、前回調査（H24年）との比較においても区部と同様の傾向を示し、－0.5ポイントと若干減少となっている。

私有地には地目別として宅地が含まれ、その用途別の内訳を表Ⅱ－4に示す。

用途別の内訳では、住宅地区が構成比では区部の平均値より下回っているものの、本区の約80%を占めている。商業地域は構成比で区部の平均値を上回り、工業地域は区部の平均値をやや下回っている。文京区は工業系よりも商業系の土地利用が優先している区であると位置づけられる。

表Ⅱ－5に示される個人宅地の一人あたり面積129㎡という数値は、区部平均の179㎡と比べて50㎡程下回っている。前回調査（平成24年）における個人宅地の一人あたりの面積は133㎡、前々回調査（平成16年）は146㎡と、細分化の傾向が続いていることが推測される。

表Ⅱ－3 地域別行政面積および私有地面積の増減

区市町村名		行政面積		私有地面積				私有地増減	
		平成29年 (A)	平成24年 (C)	平成29年 (B)	平成24年		面積	比率	
					(B/A)	(D/C)			
区部	千代田区	11.66	11.64	4.07	34.9	4.06	34.8	0.01	0.0
	中央区	10.21	10.18	3.93	38.5	3.95	38.8	-0.01	-0.3
	港区	20.37	20.34	10.01	49.1	9.89	48.6	0.12	0.5
	新宿区	18.22	18.23	10.19	55.9	10.31	56.5	-0.12	-0.6
	文京区	11.29	11.31	5.95	52.7	6.02	53.2	-0.06	-0.5
	台東区	10.11	10.08	4.67	46.2	4.81	47.7	-0.14	-1.5
	墨田区	13.77	13.75	7.10	51.5	7.11	51.7	-0.02	-0.2
	江東区	40.16	39.99	15.59	38.8	15.27	38.2	0.32	0.6
	品川区	22.84	22.72	13.65	59.8	13.69	60.2	-0.04	-0.5
	目黒区	14.67	14.70	9.28	63.2	9.24	62.8	0.04	0.4
	大田区	60.83	60.42	25.79	42.4	25.76	42.6	0.03	-0.2
	世田谷区	58.05	58.08	36.88	63.5	36.94	63.6	-0.07	-0.1
	渋谷区	15.11	15.11	8.34	55.2	8.49	56.2	-0.14	-0.9
	中野区	15.59	15.59	10.37	66.5	10.37	66.5	0.00	0.0
	杉並区	34.06	34.02	22.40	65.8	22.49	66.1	-0.09	-0.4
	豊島区	13.01	13.01	8.20	63.0	8.23	63.3	-0.03	-0.2
	北区	20.61	20.59	10.48	50.9	10.45	50.8	0.03	0.1
	荒川区	10.16	10.20	5.90	58.0	5.92	58.0	-0.02	0.0
	板橋区	32.22	32.17	18.49	57.4	18.47	57.4	0.02	0.0
	練馬区	48.08	48.16	31.13	64.7	31.25	64.9	-0.12	-0.1
足立区	53.25	53.20	28.51	53.5	28.69	53.9	-0.17	-0.4	
葛飾区	34.80	34.84	17.43	50.1	17.49	50.2	-0.06	-0.1	
江戸川区	49.90	49.86	24.08	48.3	24.18	48.5	-0.10	-0.2	
荒川河口部	1.12	1.15	-	-	-	-	-	-	
中央防波堤埋立地	7.48	3.65	-	-	-	-	-	-	
区部計	627.57	622.99	332.43	53.0	333.07	53.5	-0.63	-0.5	

出典：東京都統計年鑑

注1：課税資料より作成。（各年1月1日現在）

2：私有地面積は評価総地積。（区分所有に係る土地および免税点未満を含む。）

3：行政面積は東京都区市町村別面積により作成。（各年10月1日現在）

4：数値の端数処理（四捨五入）のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。

表Ⅱ－４ 宅地の用途別内訳

(単位：ha、%)

区市町村名	計		住宅地区		商業地区		工業地区		その他	
		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
千代田区	365.6	100.0	47.7	13.1	317.9	86.9	0.0	0.0	0.0	0.0
中央区	392.7	100.0	133.4	34.0	247.3	63.0	12.0	3.1	0.0	0.0
港区	929.9	100.0	610.2	65.6	298.3	32.1	21.4	2.3	0.0	0.0
新宿区	988.6	100.0	860.0	87.0	114.0	11.5	14.7	1.5	0.0	0.0
文京区	588.1	100.0	487.4	82.9	81.3	13.8	19.4	3.3	0.0	0.0
台東区	439.8	100.0	203.6	46.3	236.2	53.7	0.0	0.0	0.0	0.0
墨田区	685.2	100.0	520.6	76.0	45.8	6.7	118.8	17.3	0.0	0.0
江東区	1,491.1	100.0	1,000.4	67.1	71.8	4.8	418.8	28.1	0.0	0.0
品川区	1,152.1	100.0	927.5	80.5	79.9	6.9	144.7	12.6	0.0	0.0
目黒区	910.8	100.0	877.8	96.4	33.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0
大田区	2,502.2	100.0	2,229.6	89.1	32.1	1.3	240.5	9.6	0.0	0.0
世田谷区	3,482.0	100.0	3,463.4	99.5	18.6	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0
渋谷区	798.0	100.0	685.9	86.0	112.1	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中野区	1,006.0	100.0	991.1	98.5	14.8	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0
杉並区	2,160.2	100.0	2,141.9	99.2	18.2	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
豊島区	782.1	100.0	687.7	87.9	94.5	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0
北区	956.9	100.0	869.4	90.9	21.3	2.2	66.1	6.9	0.0	0.0
荒川区	540.0	100.0	452.6	83.8	15.0	2.8	72.3	13.4	0.0	0.0
板橋区	1,803.9	100.0	1,656.1	91.8	15.8	0.9	132.0	7.3	0.0	0.0
練馬区	2,841.2	100.0	2,834.2	99.8	6.6	0.2	0.0	0.0	0.4	0.0
足立区	2,727.7	100.0	2,481.3	91.0	35.9	1.3	210.4	7.7	0.1	0.0
葛飾区	1,657.5	100.0	1,557.5	94.0	44.9	2.7	55.1	3.3	0.0	0.0
江戸川区	2,333.5	100.0	2,180.9	93.5	33.8	1.4	118.6	5.1	0.3	0.0
区部計	31,534.9	100.0	27,900.2	88.5	1,989.1	6.3	1,644.6	5.2	1.0	0.0

出典：東京都統計年鑑

注 1：課税資料より作成。(平成 29 年 1 月 1 日現在)

2：免税点未満を含む。

3：区分所有に係る土地を含む。

4：用途地区の定義を平成 9 年度から変更している。

5：数値の端数処理(四捨五入)のため、表中の各項の合計は、必ずしも総計値と一致しない。





### (3) オープンスペース

本区における主要なオープンスペースの存在状況を図Ⅱ－6に示す。

区の中心部および東西南北の4方向に学校、公園、社寺、墓地等が分布し、大規模なオープンスペースを形成している。また、区の北部や西部には社寺、墓地等および公園が分散しており、小規模なオープンスペースが多く存在している。



図Ⅱ－6 オープンスペースの状況